



位置する。港北ニュータウンには歩行者専用道路があり、特にグリーンマトリックスと呼ばれる公園や民有地の斜面樹林を連結させた緑道が特徴的である。対象地域の緑道はゆうばえの道と呼ばれ小学校周辺の住宅地を囲うように駅付近まで繋がっている。また、この地域は戸建住宅やマンションなどの住宅地や農地、公園など様々な土地利用がされている。また、歩行者専用道路も整備されていることから、生徒が安全に生活できる環境といえる。

## 2-2 研究方法

本研究では生徒に自分たちのまちである荏田南地域について理解を深めてもらうため、荏田南地域の特徴である緑道を題材とした授業プログラムを立案・実施する。小学校側から意見もいただき、安全面・快適性・自然とのふれあいの3つの視点から緑道の効果を理解する内容とすることとした。まちあるきを中心に授業を展開し、緑道の効果をより感じとってもらうために住宅地との比較を行う。今回は生徒の「まちの愛着」「定住意識」と「緑道の関心」「緑道の印象」を調査するため、WS実施前・WS終了後・WS終了1ヶ月後の計3回のアンケート調査を実施する。そこから生徒の意識の変化の仕方を検証していく。

## 第3章 ワークショップ実施内容

### 3-1 ワークショップ構成

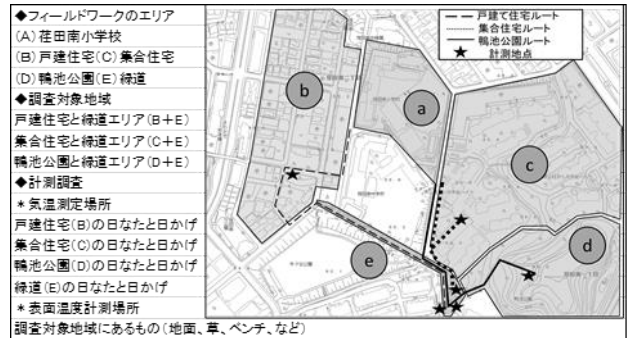
本WSは、荏田南の特徴である緑道を教材として、まちについての知識や興味・愛着を育むことを目的としている。そのためのステップとして、表3のような構成で授業を展開した。中でも特徴として、温度の測定を行うことは、子供の記憶に残りやすい「体感する」というステップにおいて大きな影響を与えると考えている。

【表2】ワークショップ概要

テーマ	緑道を通してまちについて考えよう
対象小学校	横浜市立荏田南小学校
対象者数	5年1組・2組・3組 計113名
授業科目	総合的な学習の時間
実施期間	2013年 9月9日～9月19日
学習時間	1クラス計6コマ(1コマ45分) 計290分
学生人数	実施学生3名 学生サポーター7名 計10名
関連イベント	荏田南小学校30周年記念

流れ	コマ	手法	目的	内容	学生支援
知識をつける 関心をもつ	1	座学	荏田南のまちに対する知識をつけてもらいまちを考えるきっかけを与える	◇荏田南小学校周辺の土地活用 ◇緑道とは ◇緑道が与える影響 ◇体感温度について ◇体感を変えている要素 ◇小学校周辺で体感温度を変えているもの(フィールドワークの範囲)	パワーポイントにて内容を紹介します。また生徒1人1人には授業内容を記載したハンドブックを配布。穴埋めになった場所をクイズ形式で出題
準備する	2	準備	円滑にフィールドワークを行えるように準備する	◇エリア決めとエリア説明 ◇気温計の測り方の説明 ◇表面温度計の測り方の説明	学生が1班につき1人ずつつき、フィールドワークの内容・地図の見方・温度計の使用方法などの確認を行う
体感する 調査する	3 4	フィールド ワーク	座学で学んだ知識を実際に体験してもらい自分の意見をもってもらう	◇指定のルート(表3-4)で『安全面』『快適性』『自然とのふれあい』の3つの視点別に感じたこと自由に記入し、その場所を地図上に項目ごとに異なるシールを貼る ◇気温・表面温度を指定された場所で計測(表3-4)	1クラス6班(1エリア2班)で、学生が1班につき1人ずつサポーター・サポーター。調査内容である3つの項目を座学で教えたことをプリントに投げかけ・確認を行う。
まとめる 共有する	5	グループ ワーク	体感・調査したことを振り返り、グループ内で共有する	◇それぞれのエリアで感じたことをグループ内で共有し、3視点の中で特に印象に残ったものを模造紙に記入 ◇測定した気温・表面温度の結果を共有し、測定しておもしろかった結果を模造紙に記入	引き続き学生が1班につき1人ずつつき、調査内容を班全体で共有し、話し合えるようにサポートする。また、模造紙完成版のレイアウトを準備し、完成イメージをもってもらう
発信する	6	発表	自分が行かなかったエリアの情報共有や自分が気づかなかったことなどの新しい発見をする	◇模造紙にまとめたことを各グループ5分程度で発表	1人1人の発表時間の調整、内容の確認、発表のサポート

【表4】調査対象地



【写真1】気温計



【写真2】表面温度計



### 3-2 ワークショップ実施内容

本WSでは緑道を教材としているが、安全面、快適性、自然とのふれあい3つの視点から緑道について学習を進めた。座学ではそれぞれの面での特徴を説明した。安全面では交通、防犯において車が通らないことや夜薄暗いこと、快適性では涼しさや静かさ、自然とのふれあいでは自然の豊かさ、遊び場としての緑道について伝えた。その中で快適性の伝え方として、緑道とそれ以外の場所(表4参照)の温度を事前に計測し、その結果を表にして、データを使って比較することで印象付けた。

## 第4章 調査結果

### 4-1 調査項目

調査はWS実施前、WS実施後、WS1ヶ月後の3回のアンケートにより行った。表5記載のように、まち・緑道への関心の意識変化と、緑道の利用行動の変化を見る行動変化を調査した。意識変化では緑道の関心、まちへの愛着・定住意識の5つの質問からまちへの印象を調査し、緑道の印象については「安全面」「快適性」「遊ぶこと」「清潔さ」の面から調査した。

【表3】ワークショップ詳細

【表5】調査項目

実施のタイミング	WS 実施前	WS 実施後	WS 1ヵ月後	番号	
				性別	居住年数
基本情報	○	-	-	男(58人) 女(51人)	0~3年(20人) 4~7年(26人) 8年以上(60人)
	○	-	-	○	-
	○	-	-	○	-
緑道の利用行動	○	-	○	○	○
	○	-	○	○	○
まちの印象	A	○	○	○	○
	B	○	○	○	○
	C	○	○	○	○
	D	○	○	○	○
	E	○	○	○	○
緑道の印象	F	○	○	○	○
	G	○	○	○	○
	H	○	○	○	○
	I	○	○	○	○

4-2 WS 前後の緑道の関心

4-2-1 緑道の関心

緑道の関心はWS実施前からプラスイメージが多かった。WS実施前とWS実施後でわずかではあるがさらにプラスイメージが上がる結果となった。Bにおいて、もともと意識が高いこともあるが、意識が上がったのは緑道を実際にクラスの友人と一緒に歩いて自然とふれあったことが要因の一つであると考えられる。

【表6】WS前後の緑道の関心

	緑道への関心							
	A				B			
	WS実施前 人数 構成比	WS実施後 人数 構成比	WS実施前 人数 構成比	WS実施後 人数 構成比	WS実施前 人数 構成比	WS実施後 人数 構成比	WS実施前 人数 構成比	WS実施後 人数 構成比
そう思う	57	55%	71	68%	41	39%	54	52%
少し思う	34	33%	24	23%	36	35%	38	37%
どちらともいえない	10	10%	8	8%	20	19%	11	11%
あまりそう思わない	2	2%	0	0%	7	7%	0	0%
全くそう思わない	1	1%	1	1%	0	0%	1	1%

【表7】WS前後の緑道の関心の変化

変化	緑道への関心			
	A		B	
	人数	構成比	人数	構成比
上がった	29	28%	36	35%
変わらない	63	61%	52	50%
下がった	11	11%	15	15%

■緑道の印象

緑道の関心はどのような観点によってWS前後で変化したのかを調査した。F~Iのどの質問もWS実施後に意識が上がった。中でも「そう思う」の回答が多く、一番意識変化したのはGであった。これはやはり実際に温度を計測し、その結果を目で見て確認した影響が強いと思われる。

【表8】緑道の印象

	緑道の印象							
	F				G			
	WS実施前 人数 構成比	WS実施後 人数 構成比	WS実施前 人数 構成比	WS実施後 人数 構成比	WS実施前 人数 構成比	WS実施後 人数 構成比	WS実施前 人数 構成比	WS実施後 人数 構成比
安全	33	30%	31	32%	36	35%	38	37%
どちらかというと安全	44	40%	48	50%	19	18%	26	26%
どちらでもない	9	8%	5	5%	16	15%	4	4%
どちらかというと危ない	4	4%	10	10%	2	2%	0	0%
危ない	4	4%	2	2%	3	3%	0	0%
考えたことない	15	14%	0	0%	10	9%	0	0%
	H				I			
	WS実施前 人数 構成比	WS実施後 人数 構成比	WS実施前 人数 構成比	WS実施後 人数 構成比	WS実施前 人数 構成比	WS実施後 人数 構成比	WS実施前 人数 構成比	WS実施後 人数 構成比
	楽しい	35	33%	34	35%	31	28%	41
どちらかというと楽しい	24	23%	43	45%	37	34%	35	36%
どちらでもない	25	24%	15	16%	26	24%	12	12%
どちらかというとつまらない	5	5%	3	3%	4	4%	7	7%
つまらない	2	2%	1	1%	1	1%	3	3%
考えたことない	15	14%	0	0%	10	9%	0	0%

4-3-3 属性・緑道利用による関心の違い

緑道に対する関心が高い人がどのような属性を持っているのかを分析した。性別や居住形態では違いは見られなかったが、居住年数においては年数が長いほど関心が高いことが分かった。緑道利用では、質問Aでは緑道利用頻度が多いほど関心が高い生徒が多いが、質問Bでは違う傾向が見られた。このことから、緑道が好きだからといって、必ずしも緑道を歩くことも好きだとは限らないことが分かる。

【表9】緑道の関心が高い人の属性と緑道利用比較

※「そう思う」と回答した生徒

性別		A				B			
		WS実施前		WS実施後		WS実施前		WS実施後	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
男子	29	50%	36	62%	22	38%	26	45%	
	29	57%	35	69%	20	39%	28	55%	
女子	7	35%	10	50%	6	30%	6	30%	
	13	50%	16	62%	11	42%	11	42%	
	37	62%	44	73%	24	40%	37	62%	
居住年数	集合住宅	36	55%	45	68%	26	39%	37	56%
	戸建住宅	21	54%	25	64%	16	41%	16	41%
緑道の利用頻度	毎日	22	59%	27	73%	15	41%	20	54%
	週4~5	21	55%	23	61%	13	34%	15	39%
	週2~3	9	50%	11	61%	7	39%	7	39%
	週1	4	31%	7	54%	4	31%	9	69%
	殆ど通らない	2	25%	3	38%	3	38%	3	38%
緑道で遊ぶ頻度	よく遊ぶ	6	60%	6	60%	6	60%	5	50%
	たまに遊ぶ	31	67%	33	72%	23	50%	27	59%
	殆ど遊ばない	12	44%	18	67%	7	26%	15	56%
	全く遊ばない	4	27%	7	47%	2	13%	2	13%

4-3-4 緑道の利用の仕方・頻度の変化

緑道利用頻度・緑道で遊ぶ頻度・緑道の利用の仕方はWS実施前とWS実施1ヶ月後でどう変わるかについて、アンケートにて調査した。緑道利用頻度と行き先はWS前後での変化はあまり見られなかった。遊ぶ頻度についてはよく遊ぶ生徒は増えたが、たまに遊ぶ生徒は減っていた。フィールドワーク後にみんなで少し遊んだことが影響していると思われる。

【表10】緑道利用頻度

	WS実施前		WS1ヶ月後	
	人数	構成比	人数	構成比
毎日	37	34%	36	35%
週4~5	33	30%	30	29%
週2~3	18	17%	23	22%
週1回	13	12%	10	10%
ほとんど通らない	8	7%	5	5%

【表11】緑道で遊ぶ頻度

	WS実施前		WS1ヶ月後	
	人数	構成比	人数	構成比
よく遊ぶ	10	10%	17	17%
たまに遊ぶ	46	47%	34	33%
ほとんど遊ばない	26	27%	38	37%
全く遊ばない	15	16%	14	14%

【表12】緑道利用による行き先

記号	選択肢	WS実施前		WS1ヶ月後	
		人数	構成比	人数	構成比
ア	登下校	55	55%	61	61%
イ	公園で遊ぶ	55	55%	56	56%
ウ	友だちの家	53	53%	49	49%
エ	塾・習い事	48	48%	52	52%
オ	買い物	28	28%	24	24%
カ	虫取りや遊び	15	15%	14	14%
キ	ランニング	9	9%	14	14%
ク	犬の散歩	4	4%	5	5%
ケ	その他	8	8%	4	4%
回答人数		100人		100人	



#### 4-4 WS 前後のまちの愛着と定住意識の変化

荏田南のまちへの愛着・定住意識について生徒はどう感じているか、WS前後でどう変化したかを調査した。WS実施前からC, D, E どの質問においても9割くらいの人がプラスイメージを持っていた。C, EにおいてはWS前後の変化はなかったが、Dでは住みやすいと思う生徒がわずかではあるが増えた。本WSでまちへの愛着・定住意識について考えるきっかけにはなつたと考えられるが、意識変化に大きな影響は与えなかった。

表 13 WS前後のまちの愛着・定住意識

	まちの愛着						定住意識					
	C		D		E		C		D		E	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	76	73%	77	74%	66	63%	70	67%	72	69%	74	71%
少し思う	19	18%	19	18%	27	26%	26	25%	19	18%	17	16%
どちらともいえない	8	8%	7	7%	7	7%	7	7%	11	11%	12	12%
あまりそう思わない	1	1%	1	1%	4	4%	1	1%	1	1%	1	1%
全くそう思わない	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%	0	0%

表 14 WS前後のまちの愛着・定住意識の変化

変化	まちの愛着				定住意識	
	C		D		E	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
上がった	12	12%	20	19%	15	15%
変わらない	79	77%	70	68%	73	71%
下がった	12	12%	13	13%	15	15%

#### 4-5 WS 終了1ヶ月後の意識の持続性

緑道の関心は全体的にみると、WS 実施後から意識が下がりWS 実施前に戻っていた。しかし、緑道の印象においてG 快適性では他の質問と比べて意識が持続していた。まちの愛着・定住意識は実施前からプラスイメージが高く、WS 1ヶ月後でも大きな意識の変化は見られなかった。

表 15 WS 1ヶ月後の緑道の関心

WS 1ヶ月後	緑道への関心					
	A		B		前回比	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	52	49%	72%	50	47%	90%
少し思う	38	36%	157%	32	30%	81%
どちらともいえない	14	13%	163%	19	18%	164%
あまりそう思わない	3	3%	-	5	5%	-
全くそう思わない	0	0%	0%	1	1%	100%

表 16 WS 1ヶ月後のまちへの愛着・定住意識

WS 1ヶ月後	まちへの愛着						定住意識					
	C		D		前回比		E		前回比			
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比		
そう思う	75	71%	96%	69	65%	97%	72	68%	96%			
少し思う	26	25%	139%	30	28%	112%	22	21%	131%			
どちらともいえない	3	3%	43%	7	7%	100%	10	9%	75%			
あまりそう思わない	2	2%	200%	0	0%	0%	1	1%	100%			
全くそう思わない	0	0%	-	0	0%	-	1	1%	-			

表 17 WS 1ヶ月後の緑道の印象

WS 1ヶ月後	F			前回比	WS 1ヶ月後	G		
	人数	構成比	前回比			人数	構成比	前回比
	安全	40	38%			119%	58	61%
どちらかというと安全	43	41%	82%	どちらかというとそう思う	28	30%	115%	
どちらでもない	14	13%	260%	どちらでもない	6	6%	150%	
どちらかというと危ない	9	9%	90%	どちらかというとそう思わない	2	2%	-	
危ない	0	0%	0%	そう思わない	1	1%	-	
WS 1ヶ月後	H			前回比	WS 1ヶ月後	I		
	人数	構成比	前回比			人数	構成比	前回比
	楽しい	37	39%			111%	きれいな	26
どちらかというと楽しい	27	29%	64%	どちらかというときれいな	36	39%	108%	
どちらでもない	22	23%	144%	どちらでもない	20	22%	183%	
どちらかというとつまらない	4	4%	133%	どちらかというと汚い	11	12%	171%	
つまらない	4	4%	400%	汚い	0	0%	0%	

※表 15, 16, 17 の前回比は WS 実施後との比を表す

### 第5章 まとめ・考察

今回のまちづくりワークショップにより、緑道の利用の仕方や頻度などの行動変化には結びつかなかったが、

緑道の関心や印象を高めることには繋がった。これには2つの要因があると考えられる。1つ目は、快適性の学習方法として、温度を測った点である。緑道の現状を知る断片的な手法だったにも関わらず、生徒の緑道の関心を高め、緑道を多面的に見るきっかけにもなった。2つ目は、緑道と住宅地を安全面、快適性、自然とのふれあいの3視点から比較した点である。見る視点を絞って緑道だけでなく他の場所も調査することで、より緑道の特徴を明確に実感できたのではないかとと思われる。

しかしこれらがまちへの関心が高まることには繋がらなかった。そこで、まちへの関心を高めるためには他のまちとの比較を行うことが有効ではないかと考える。同じ視点でまちを見て比較することは有効であると思われる。また、まちを考える視点として、人とのつながりに関する意見も多く見られたので、地域の人との交流を図る事も有効的ではないかと考える。

#### <参考文献>

横浜市環境創造局ホームページ  
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kanky/>  
 横浜市都筑区：ようこそ自治会・町内会へ：荏田南連合自治会  
<http://www.city.yokohama.lg.jp/tsuzuki/chiiki/chiiki/jic hikai/jichi11.html>  
 横浜市 都市整備局 地域まちづくりの推進 港北ニュータウン 現状とまちづくりの方針  
<http://www.city.yokohama.lg.jp/toshi/chiikimachi/nt/>

#### 既往論文

①高見、平川、脇田(平成17年)「小学生を対象としたまちづくりワークショップ手法に関する研究」日本建築学会中国支部研究報告集 第28巻 p745-p748  
 ②吉村、加藤、北原(2001年)「小学生を中心とした景観ワークショップ」日本建築学会大会学術講演梗概集 p11-p12  
 ③高見、平川、脇田(平成17年)「小学生を対象としたまちづくりワークショップ手法に関する研究」日本建築学会中国支部研究報告集 第28巻 p741-p744  
 ④小林、室田(2013年)「小学校における地域の歴史・文化資源を教材としたまちづくり学習の有効性と課題」公益社団法人日本都市計画学会 都市計画報告集 No. 11 p164-p167  
 ⑤脇田、森本(2012年)「歴史的市街地における小学生のためのまちづくり教育」日本建築学会技術報告集 第18巻 第39号 p715-p720  
 ⑥佐藤(2013年)「小学校高学年を対象とした省エネまちづくりワークショップの有効性と課題に関する研究」日本建築学会関東支部研究発表会  
 ⑦松村、田村、大柳(2004年)「北海道における子どもの安全安心まちづくりに関する研究」日本建築学会大会学術講演梗概集 p317-p318  
 ⑧梶木(2006年)「小学校と地域の協働による地域安全マップ作成の検証」日本建築学会大会学術講演梗概集 p539-p540  
 ⑨篠部、奥田、安井(平成17年)「学校教育と連携したまちづくりの実践に関する基礎的研究その1」日本建築学会中国支部研究報告集 第28巻 p721-p724  
 ⑩田代、細田、関口、渡邊、佐藤、馬場、米倉(2001年)「デザインプロセスを用いた『総合的な学習』の支援」日本建築学会大会学術講演梗概集 p775-p776  
 ⑪馬場、細田、関口、渡邊、佐藤、田代、米倉(2002年)「デザインプロセスを用いた『総合的な学習』の支援(その2)」日本建築学会大会学術講演梗概集 p775-p776  
 ⑫柏井、梶井、森地(平成17年)「日本橋地域における小学校でのまちづくり活動の報告」土木学会第60回年次学術講演会 p131-p132